

トドマツ人工林における保残伐施業の実証実験に係る 共同記者発表会 開催

独立行政法人 森林総合研究所北海道支所、地方独立行政法人 北海道総合研究機構森林研究本部林業試験場、国立大学法人 北海道大学農学部森林科学科 と北海道は、5 月 15 日に当実験に関する共同研究協定を締結しました。

この実験は、北海道有林のトドマツ人工林に、伐採方法や保残率（林内の広葉樹を切り残す程度）を変えた実験区を設定し、生物多様性や生態系サービス、水土保持機能の違いを調べるもので、国内初の大規模なものとなります。

実施にあたり、実証実験の背景・課題や役割分担、および実施体制について、各機関から説明を行いました。

また、発表会後には第 1 回実証実験運営協議会が開催され、実験の計画などについて話し合いを行いました。

○日時:平成 25 年 6 月 7 日(金)10:00～10:30

○場所:北海道庁

○出席者:(独)森林総合研究所北海道支所長 牧野俊一

北海道大学農学部森林科学科教授 中村太士

(地独)北海道立総合研究機構森林研究本部長 中島俊明

北海道水産林務部森林環境局長 濱田修弘



ー共同記者発表の様子ー
(左から)

牧野 森林総研北海道支所長

中村 北海道大学 教授

中島 道総研森林研究本部長

濱田 道森林環境局長